

## WEEKLY REPORT

ということで、当クラブの伝統と将来は選ばれてロータリアンとなられた皆さん方のロータリアンとしてのロータリーの奉仕の理念の理解とその実行により、自己研鑽とクラブ活動の成果が奉仕活動の結果として積み上げられ、そしてまた未来へと継がれていくことと思はれます。ですから私はあまり難しく考えず、先輩会員を含めて親睦とクラブ活動の中に、自己研鑽があり、それぞれ人間として他者の為になる生き方（四つのテスト）が出来れば、それで良いと思っております。最後に皆さん「クラブ定款第5条・目的」の中の奉仕の理念を再確認し今後のロータリーライフを楽しんで頂けますようご祈念申し上げてつたない卓話を終わります、ありがとうございました。

高橋・小菅年度前後の様子

- ・新旧会長・幹事の引継ぎ
- ・会員の体力測定と健康診断 … 移動例会
- ・障害者との交流 芋掘り・ボーリング大会
- ・小学校との交流（水の汚染防止）
- ・老人ホーム施設の訪問（慰問）  
「北クラブ園芸同好会結成」
- ・会員の出身県等への親睦旅行
- ・千葉大学園芸学部・留学生との交流と奨学金事業
- ・3分間情報・ロータリー月間スピーチ
- ・お祝い対象家族の例会出席
- ・有珠山噴火災害見舞
- ・インフォーマルミーティング
- ・会員の職場訪問、優良職員表彰
- ・献血運動（赤十字と商店街協力）
- ・市内交通遺児育英基金事業
- ・中国小学校建設援助
- ・米山小学校お世話クラブ
- ・お花見例会（家族同伴）移動例会
- ・ハイチチャリティコンサート

・ニコニコのユニークなもの

(例) 早退のお詫び 欠席のお詫び  
バッジ忘れのお詫び ペナルティ

### <今月の諸事お祝い>



夫人誕生日 10月15日 松丸会員（美華様）

### <本日のニコニコ発表>

😊 松丸政司会員  
私と妻の誕生日のお祝いを有り難うございます。

😊 崎谷延好会員  
10月10日、丁度芋掘りのあった日の夜、家内が赤坂で演奏中、脳梗塞を起こし、虎ノ門病院に搬送されました。新松戸で芋掘りの打ち上げが終わり2次会の店を出たところだったので、慌てて病院に向かう途中、千代田線の車中で最悪の事ばかり頭をよぎり、病室に入った時に「まいっちゃったわよ。」と本人の言葉を聞いた時の安堵感は言葉に言い表せないものでした。医師からは「軽度で処置も早かったので後遺症の心配もないでしょう。」と告げられた時、改めて健康の有り難さが痛感致しました。

20日にライブで演奏しましたが指の運びもいつも通りでまだドイツのピアノを聞く事が出来ると思った時の心の心境をを一句読みました。

「秋の夜 音色つまみに 赤ワインン」  
嬉しかったのでニコニコします。

Rotary  2018-2019年度

国際ロータリー 第2790地区 第13グループ

## 松戸北ロータリークラブ会報



インスピレーションになろう

「四つのテスト」 言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第2224回 例会 2018年10月24日(水)

- |                  |         |  |
|------------------|---------|--|
| ■国際ロータリー会長       | バリー・ラシン | ■例会日 - 毎週水曜日12:30より (第1例会18:30)                  |
| ■第2790地区ガバナー     | 橋岡久太郎   | ■例会場 - 流山市前ヶ崎717「柏日本閣」                           |
| ■第13G アシスタントガバナー | 野村 充    | ■事務所 - 松戸市八ヶ崎1-11-13 カナイズハイム101                  |
| ■松戸北ロータリークラブ会長   | 高橋 一彦   | ■TEL/FAX- 047-711-5950 / 047-711-5910            |
| ■松戸北ロータリークラブ幹事   | 小澤 直之   | ■Web/Mail- www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp |

社会奉仕基金 3,147円 《会報編集委員》大川隆永・野澤新之助・高橋修・森谷充伯

## ＜第2224回 例会プログラム＞

12:30	点鐘 ロータリーソング斉唱【♪我等の生業】	高橋一彦会長
12:33	お客様紹介	大川高明会長エレクト
12:35	会食	
13:00	会長挨拶・報告 幹事報告	高橋一彦会長 小澤直之幹事
13:05	卓話 「松戸北ロータリークラブの伝統と将来」	高橋 清会員
13:25	諸事御祝 出席・親睦活動・ニコニコ委員会 社会奉仕基金発表 社会奉仕委員会 本日のニコニコ発表	洲上啓太委員長 大塚精一委員長 吉田俊一委員
13:30	点鐘	高橋一彦会長

## ＜クラブ会長挨拶:高橋一彦会長＞

皆様こんにちは。  
本日は10月24日ですのでロータリー会員として既にご存知でしょうが『世界ポリオデー』であり、ポリオワクチンを開発しましたジョナス・ソーク博士の誕生日に併せての設定だそうでございます。  
国際ロータリーとしても『ポリオ・プラス』と表し、世界からポリオ（骨髄性小児麻痺）を撲滅する目的より現在においても大規模な活動が継続されております。



1985年に発足。当初の目標は発展途上国の子供達に5年間、ポリオの予防接種を行うために米価1億2,000万ドルを集める事であり、これに対しての募金活動は1988年に終了し、集められた資金は米貨2億4,700万ドルに達したとの記録がございました。

その後、2002年に世界的な撲滅の達成にあたり最もおおきな障害は資金不足である事が判明したため、ロータリーとして「約束を守ろう・ポリオをなくそう」と呼ばれる新たな撲滅キャンペーンを開始し現在に至っているようで、今では「ポリオ・プラス」と呼ばれているようです。

何より素晴らしいと感じるのは、当初よりロータリアンの寛容さと熱意より、募金活動、国際ロータリーよりのボランティア動員、また撲滅活動への地域の人々の動員など、残された感染圏でも活動が現在も継続されている事です。

また、今年度のバリー・ラシンRI会長よりもネット上で報告がございました。  
今日、ポリオの発症数は最小限に留まっており、野生型ポリオウイルスの発症数14件、ポリオ常在国は3ヵ国であり、ウイルスが伝搬しているのはアフガニスタンとパキスタンの国境地域のみですが、このような感染が残された地域、またアフリカや東南アジアなどの、信じられないほど離れた村々、戦争、政情不安、貧困等の中で、子供達その全てに予防接種をしなければならない事であり、まだ撲滅達成に向けた課題は残っており引き続きの資金提供が必要です。撲滅を実現する唯一の方法としてロータリアンが現在取っているアプローチ、大規模かつ一斉規模で行う以外にありませんと語られております。

尚、撲滅が認定される期間は最後の発症が報告されてから3年だそうです。  
日本国内でもポリオプラスへの募金を目的とした活動をされているクラブを広報誌などから多々、拝見いたします。財団を通し会員皆様のポリオ撲滅へのお気持ちとご協力は伝わっているとは存じますが、ロータリーにおいて世界規模での壮大な人道的奉仕ともありますので、今後の松戸北クラブでの活動としても考えを向けて行くべき内容の1つなのではないでしょうか。

## ＜松戸北ロータリークラブの伝統と将来:高橋清会員＞

私は平成元年に浅野会員の紹介で入会し、お蔭様で約30年間色々とお世話となり勉強させて頂きました。現在私の先輩にはチャーターメンバーが3名他に6名合せて9名の先輩会員がおります。そして止むを得ない理由で退会された会員や、すでに故人となられた会員の中にも忘れることの出来ない先輩会員が多数居りました。そしてまた会員としては後輩にあたる方々の中にも、企業人として、また人間としても大変優秀な方々がたくさんいらっしゃいます。クラブ活動をする中で助けて頂いたり、教えて頂いたり、中には例会出席のお世話までして頂いたり、ということで年寄り会員の私は皆さんに色々とお世話をおかけしております。本当にありがとうございます。



お蔭さまで私の人生の後半は夫婦共々、又息子達までロータリーの奉仕の心の勉強をさせて頂き、奉仕のお手伝いもすることが出来たし、親睦を通して生きていることの楽しみを知ることが出来ました。改めて皆さんに心からお礼申し上げたいと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。

さて、改めて当クラブの様子を見てみますと、現在40名の会員の内、年齢で考えますと、日本の現状では60才台は未だ現役と考えられますから、当クラブの場合、40名から70才以上の15名を引くと残り25名の方が現役ということで、当クラブも半数以上若返ったということになります。これも奉仕の心を実践して下さった先輩会員の努力と熱心な親睦活動も含めて、その成果の現れではないかと、心からお礼申し上げたいと思います。おそらく、その熱心な心に動かされて入会された会員の皆さんは自然と時の経つにつれて、ロータリーの奉仕の理念を理解され、先輩会員にならって成長し、ロータリーの奉仕活動にとけこんでいく事と思えますし、すでに立派に会の運営にもたずさわり、先輩会員の面倒もみてくれておりますし、先輩会員は当クラブの将来に大いに期待しているところではないでしょうか。

さて過去を振り返る中で、当クラブ発足の当時には色々面倒で大変なこともあったそうですが、先輩会員はそれを乗り越えてこられたそうです。また私の記憶の中には、細則運用上人事の面で、これでいいものかどうか、と考えさせられることもありましたが、これも皆さんの努力で細則の充実が図られ現在にいたっており、あくまでも組織としての運営がきびしい中にも奉仕活動が円滑に出来るように期待したいと思います。

ところで、北ロータリークラブの伝統と将来ということになりますとなかなかむずかしいのですが、かつての大先輩の一人でありました故人鈴木多甫治会員の卓話の一節を紹介して、その答えに当てさせて頂きたいと思えます。

「例会500回記念卓話」1983年3月8日於日本閣

ここで、クレム・レヌーフ元IR会長の言葉を思い出します。「我々は、今過去の業績の山頂に立っている。しかしそれは将来の山麓にすぎない」ということでもあります。私達はいま先輩や友人たちが作り上げた歴史と伝統の中でクラブ活動を続けているわけでありまして。しかし、これもまた将来のクラブの歴史に埋もれていくわけでありまして。いや、それを乗り越えて、いよいよ偉大なロータリアンの奉仕活動が積み重ねられていくのであろうと考えられるのであります。従って私達は松戸北ロータリークラブの歴史の一頁の担い手であり、将来まで悠久であるロータリーのひとつの橋渡しの役目を果たしているのであると云えるのではないだろうか。つねにしっかりした根底がないと山は大きく高くなるし、山麓のひろがりがいよいよ高い山の頂きにつながっていることも知らなければならぬのであります。500回例会を迎えて先輩や故人となられた友人達に深い敬意とご冥福をお祈り申し上げるものであります。そして低いながら松戸北ロータリークラブ10年の山頂に立っている現在、21世紀へ向けて一層の飛躍をしなければならない、と奉仕の理想実現の為に結ばれた同氏の皆様と共に誓いをしたいと思うのであります。（以下略）